

報部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.

東京新聞記事(こちら特報部)

小沢一郎民主党元代表が15日、東京第五検察審査会の起訴議決を「無効」とする訴えを起こした。この訴えを斟酌する以前に、今回の議決には「ミス」が付いている。審査員の平均年齢

審査員問題

だ。公表された数字が一転二転。「単純ミス」という検審査事務局の説明に「意図的な操作」といぶかる声も。いったい何があったのか。

(加藤裕治、篠ヶ瀬祐司)

足し忘れ 30.9 再計算 33.91 基準変更 34.55 ←前回と同じ

年齢クルクル 検察審査怪

「小学生のような間違」と批判されている。返す言葉もない。広報を担当する検審査事務局の職員は平身低頭する。現在、公表されている審査員の平均年齢は再訂正された数字だ。訂正の経緯は次の通りだという。

まず、四日に公表された三〇・九歳。ある職員が電卓をたたいたのだが、その際、三十七歳の審査員を足し忘れ、十分の合計年齢を十一人で割ってしまった。ほかの職員は点検しなかった。だが、この年齢が「若過ぎる」と、世間から疑問の声が上がった。そこで検審査は再計算を試みる。ここで足し忘れが見つかった。さらに十



民主党の小沢一郎元代表について、「強制起訴すべき」との東京第五検察審査会による議決結果を張り出す職員。今月4日、東京・霞が関で

再訂正までの経緯

- ① (37歳の人を足し忘れ、残り10人の合計340歳) ÷ 11 = 30.9 (4日の発表)
- ② (336 + 37) ÷ 11 = 33.91 (10人の年齢を正しく足し、37歳の人も加えた平均年齢。12日の発表)
- ③ 平均年齢 = 34.55歳 (13日の発表。基準日を就任時から議決時に変更)

人の合計年齢も間違っていたと分かった。ある人は三四・五五歳になった。その理由は「十二日の平均年齢は従来通り、審査員就任時の年齢が基準。しかし、審査員は三月月ごとに半数が入れ替わり、基準日が同じ三四・五五歳。偶二つになる。報道機関が然です! 複数の職員で議決時点を計算した。数字は間違っていない」(担当者)と要望があった。この際、審査員個々の年齢を公表した方がよいと、さらに平均年齢にふつにみえる。それがでると、就任時を基準にしている理由を尋ねる。「検審査制度は非公開が前提。審査員への不当な働きかけを防ぐ点からも個人情報は出せない」と説明する。平均年齢を公表した十一人中、七人が誕生日を迎えたことになる。ところが今年四月にあった一回目の起訴相当議決。審査員の平均年齢を、今回は「単純ミス」で済まされたい。ミスが報公開することが議決のうと、再訂正とまったく審査会自体の信頼性に直結して来るからだ。すでにインターネット上では「存在しない審査員で架空議決をした」「偽装工作」などと「謀略説」が渦巻いている。ジャーナリストの江川紹子さんは「算数だけでなく、ほかのこともミスが多いのでは、と心配になってしまつ」と話す。一回目と二回目の議決の平均年齢が同じことも「確率としてゼロではないだろうが、にわかには信じられない」と厳しい。「審査員個々の年齢く

揺らぐ信頼「情報の公開を」

「エースの追跡」